

ヒゲナガカワトビケラ

ゴールデンウィークの前後、暖かくなったせいか、害虫の相談が立て続けに入りました。その一つがヒゲナガカワトビケラでした。「夜になると電柱に大きな蛾(が)が集まっている」との住民から相談です。

保健センターが現場調査を行い、「蛾ではなく、トビケラです。比較的きれいな水質の河川が幼虫の発生源です。また、成虫は、光に集まる性質があるため、電柱の街灯などに集まり、苦情の原因となることがあります。少し不快かもしれませんが、吸血などの被害を起こすことはありませんので様子を見てください」と説明をし、市民の了解を得られました。

保健センターから念のために衛生環境研究所で種名まで調べてほしいと標本が送られてきました。

ヒゲナガカワトビケラの特徴

翅の独特のまだら模様から、ヒゲナガカワトビケラと鑑別しました。また、名前のおとりの長い触角も特徴の一つです。普通に見られる大型のトビケラです。体長は、2センチメートルほどですが、左右の翅を広げると5センチメートルほどにもなります。こんな大型の昆虫が、家のそばの電柱などの灯りに集まっていれば、今回の相談者のように気味悪がられても仕方ないことなのでしょう。

トビケラの特徴

昆虫の仲間を分けるのに目(もく)という単位でグループ分けをすることがあります。体のある部分の形質で幾つかの目というグループに分けることができます。昆虫の仲間には、文献などによって多少異なりますが、30前後の目があります。

トビケラは、トビケラ目のグループです。トビケラ目は、毛翅(もうし)目とも呼ばれることがあります。このことから分かるように翅(はね)に毛が生えているのが、このグループの特徴の一つです。

トビケラ目に比較的好く似ているといわれるチョウ目というグループがあります。チョウ目は、翅に鱗粉(りんぷん)があることから鱗翅(りんし)目とも呼ばれます。普通、この翅の違いが比較的近縁な二つの目を分ける最も簡単な特徴です。

雄の生殖器

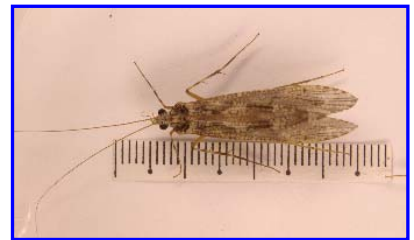
ヒゲナガカワトビケラによく似た種類にチャバネヒゲナガトビケラという種類があります。翅の模様がよく似ています。この両者を分ける方法の一つが雄の生殖器です。市民からの相談にあまり必要のないことかもしれませんが、紹介しておきます。

トビケラの幼虫

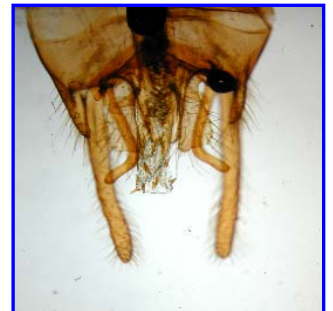
トビケラの成虫は、不快害虫として時折市民からの相談があり、成虫を見る機会は、多くあると思いますが、今回、この機会に幼虫を紹介します。

紹介するために幼虫採集に行きました。場所は、御池大橋の辺りの鴨川です。比較的大きな石を拾い上げると糸で綴ったすみかと幼虫が見つかります。その他にも色々な水生昆虫と呼ばれる生物がたくさん観察できます。

トビケラ目とチョウ目は、目と言う単位では、近縁でよく似ています。ところが、これは成虫での話です。幼虫では、両者はまったく異なった形をしています。トビケラ目の幼虫は、子供が喜ぶテレビ番組の怪獣を思い出させる特徴のある姿です。細長い頭部、よく発達した脚(きゃく)など独特の風貌があります。チョウ目の幼虫は、毛虫あるいは芋虫と呼ばれます。トビケラ目の幼虫とは、似ても似つかない形です。



ヒゲナガカワトビケラ雄成虫



雄の生殖器



幼虫



幼虫を鑑別するの
重要な頭部の模様